

お 青木村議会だより

Vol.102

令和8年8月1日発行

CONTENTS

- 令和8年第2回定例会 … 2～4
- 常任委員会報告 … 5
- 一般質問 … 6～14
- 議会の動き … 15
- 議会日誌・住民の声 … 16

お惣菜屋
ホッと、あおぎジェイエイ青木店
岩瀬夫妻

✉ gikai@vill.aoki.nagano.jp

🌐 <http://www.vill.aoki.nagano.jp/gikai03.html>



令和8年

第2回定例会

令和8年第2回定例会は、去る6月1日に招集され、12日までの会期で行われました。提出された案件は報告事項4件、農業委員会委員の選任、補正予算3件、議員発議1件、陳情2件、請負契約1件で、報告事項・議案・発議請負契約は原案のとおり可決、承認され、発議第1号、陳情第1号は採択、陳情第2号は不採択となりました。一般質問では、9人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ（要旨）

令和8年第2回青木村議会6月定例会を招集いたしましたところ、全議員の皆様方に出席を頂き感謝申し上げます。

今年は憲法公布から80年の節目に当たります。5月4日の新聞記事に「日本国憲法が謳う平和主義や基本的人権の尊重は戦争で犠牲になった人々の無念に成り立っている。その精神を忘れず未来へとつないでほしい」という記事が最も印象に残りました。

中東情勢を受けた物価高に対応する為、国は2026年度補正予算案を編成すると表明致しました。予算の規模は3兆円強で、予備費の積み増しが柱となっております。主な内容として、7・9月の電気・ガス料金の各家庭への支援額を5千円程度としております。

近年地球乾燥化が進んだことで乾燥が起こりやすく、大規模な山火事が全国で発生しております。青木村は、皆さんの心がけのおかげで2年間無火災でしたが、4月19日に当郷管地区で山林火災が発生しました。幸い発見が早く大事には至りませんでした。焼損面積は2200㎡、消火に当たったの出動車両は延べ36台、人員は延べ193人、防災ヘリコプターも1機出動しました。久しぶりの山林火災でしたので反省すべき事項も多くあり、消防団はじめ関係機関でとりまとめ今後に備えてまいります。

この度発表された県内の1人当たりのゴミの排出量は長野県の平均769g、青木村は618gで県下27位でした。また減少率はマイナス5.4%で減少率は2位でした。ごみの減量化は村内二大事業の一つに位置付けられており、村民皆さんに日頃から意識して取り組んでいただいた結果であります。

昨年、フィリピンのアロギンサン町と国際交流協定を結びました。この協定により4人のALTを派遣していただくことになりました。保育園に1名、小学校に2名、中学校に1名配置し、2か月が経ちました。4人のALTの皆さんの意識は非常に高く、授業の工夫から子どもたちへの寄り添いなど、全力で英語力の向上に向けて、努力をしてくれています。

次に上田地域広域連合の事業について申し上げます。5月12日資源循環型施設整備及び運営に係る入札公告を行い、正式に入札事務を開始しました。地域医療対策については、当圏域の慢性的な医療従事者の不足により、救急医療体制が厳しい状況にあります。病院の輪番制の継続や信州上田医療センターとの間でスムーズな転院を目的にした診療連携協定を9つの病院まで拡大するなど信州上田医療センターの救急止め時間の短縮など具体的な成果となっております。

令和7年度一般会計は5月までの出納閉鎖期間が終わり、また歳入の村税については当初予算に対し、約8000万円、13.5%の増の約6億7200万円となりました。また企業誘致前の令和4年度決算と比べると約2億4900万円、58.9%の増となりました。企業誘致は地域経済の活性化に大きく貢献し、直接的な税収が増えるだけでなく、消費の増加、新たな雇用創出、所得の増加など、村が持続可能な社会を実現するために、大きく寄与する事業となっております。

昨年に引き続き翌年への繰り越し金を確保し、更に財政調整基金へ6000万円、公共整備基金へ1000万円、情報通信施設等整備基金へ4800万円、合計1億2800万円ほどの積み立てをおこない健全財政を確保できたと考えています。

また新たに五島慶太翁千曲寮記念奨学基金を創設し、公益財団法人千曲寮様からのご寄付として5000万円の積み立てを行いました。

令和7年度専決補正予算は歳入歳出それぞれ7564万円を減額し総額を35億4482万7千円とします。この専決補正予算は各事業の進捗に伴う予算の増減です。

令和8年6月補正予算の概要

は一般会計第1号補正予算は歳入歳出それぞれ2907万2千円を追加し総額を33億8507万2千円とします。



報告

報告第1号

専決処分の承認を求めることについて

青木村税条例、国民健康保険税条例の一部改正、令和7年度補正予算4件です。

補正予算のうち、令和7年度一般会計補正予算第7号は、歳入歳出それぞれ7564万円を減額し、総額を35億4482万7千円とするもので、歳入では地方交付税2億8852万2千円の増、ふるさと応援寄附金390万6千円の減、基金繰入金3億5562万円の減が主なものです。歳出では、財政調整基金積立金6000万円の増、公共施設整備基金積立金1000万円の増、五島慶太翁顕彰事業基金積立金197万5

千円の増が主なものです。

令和7年度特別会計（国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療）に関する専決処分は、主には事業実績等による係数の整理に伴う補正でした。

反対討論（青木村国民健康保険税条例の一部を改正する条例）

坂井 弘 議員

報告第2号

令和7年度青木村土地開発公社事業報告について

令和7年度の事業及び収入支出決算等について報告がありました。

報告第3号

令和7年度繰越明許費繰越計算書の報告について（青木村一般会計）

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業、物価高対応子育て応援手当、団体営農村地域防災減災事業中原池 計画概要書作成業務、道路メンテナンス事業道路橋法定点検及び長寿命化策定計画の令和8年度に繰越した事業費及び財源の計算書で、議会の承認を求めるものです。令和8年度への繰越

額は7225万4千円です。

報告第4号

令和7年度青木村簡易水道事業会計予算の繰越について

青木地区配水管布設替工事の令和8年度に繰越した事業費及び財源の計算書で、議会の承認を求めるものです。令和8年度への繰越額は8243万1千円です。

議案

議案第1号

青木村農業委員会委員の選任について

青木村農業委員会委員の選任について、議会の同意を求めるもので、次の方が選任されました。

丸山 卓男氏（細谷区）
濱田こずえ氏（女団連）
北澤 文明氏（下奈良本区）
高柳 幸一氏（村松区）
上原 英雄氏（入田沢区）
石井 隆介氏（殿戸区）
田中 紀子氏（農業協同組合）
西沢 雄一氏（当郷区）
田中 孝幸氏（夫神区）
増田 好孝氏（入奈良本区）
濱田 博之氏（杏掛区）
有矢 祥一氏（青木区）

議案第2号

令和8年度青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ2907万2千円を追加し総額を33億8507万2千円とするものです。歳入では県地域発元気づくり支援金344万円の増、情報通信関連事業基金繰入金600万円の増、前年度繰越金1400万3千円の増が主なもので、歳出ではコミュニティ助成事業備品購入252万8千円の増、あおきネットワーク保守委託料426万8千円の増、鳥獣対策用フェン

ス設置302万5千円の増などが主なものです。

議案第3号

令和8年度青木村国民健康保険特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ18万3千円追加し、総額を4億3728万6千円とするもので、電算委託料の増に伴うものです。

議案第4号

令和8年度青木村介護保険特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ124万円追加し、総額を6億



上小消防ポンプ操法並びにラッパ吹奏大会

2906万9千円とするもので、システム改修委託料の増に伴うものです。

議案第5号

令和7年度(繰越)青木地区配水管布設替工事(交付金事業に係る請負契約)について

本事業の請負契約(7590万円)を締結するため、地方自治法の規定によって議会の議決を求めるものです。

発議

発議第1号

上下水道事業の老朽化対策・耐震化と経営基盤強化に向けた支援を求める意見書について

国会及び政府において、上下水道施設の老朽化対策と耐震化を着実に推進することを求めるもの

賛成討論

小林 久美子 議員

陳情

陳情第1号

国道143号青木峠バイパス(新トンネル)の早期開通を求める陳情書について

青木峠バイパス(新トンネル)本体工事の一日も早

い着工と、早期開通に向けた促進活動の取り組み強化を求めるもの

賛成討論

松澤 広海 議員

陳情第2号

R143号 青木峠新トンネルの安全な通行のための歩道設置に関する陳情書について

青木峠新トンネルの建設において、交通安全と地域振興のために歩道を設置することを求めるもの

反対討論

宮澤政美知 議員
塩澤 敏樹 議員



青木村消防ポンプ操法並びにラッパ吹奏大会

議案の議決結果

○賛成 ●反対

議案	小林	松澤	北澤	宮澤	宮入	松本	塩澤	平林	坂井	金井	結果
報告第1号 専決処分の承認を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	—	●	○	承認(賛成多数)
報告第2号 令和7年度 青木村土地開発公社事業報告について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	承認(全員一致)
報告第3号 令和7年度 繰越明許費繰越計算書の報告について(青木村一般会計)	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	承認(全員一致)
報告第4号 令和7年度 青木村簡易水道事業会計予算の繰越について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	承認(全員一致)
議案第1号 青木村農業委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	可決(全員一致)
議案第2号 令和8年度 青木村一般会計補正予算について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	可決(全員一致)
議案第3号 令和8年度 青木村国民健康保険特別会計補正予算について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	可決(全員一致)
議案第4号 令和8年度 青木村介護保険特別会計補正予算について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	可決(全員一致)
議案第5号 令和7年度(繰越)青木地区配水管布設替工事(交付金事業)に係る請負契約について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	可決(全員一致)
発議第1号 上下水道事業の老朽化対策・耐震化と経営基盤強化に向けた支援を求める意見書について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	採択(全員一致)
陳情第1号 国道143号青木峠バイパス(新トンネル)の早期開通を求める陳情書について	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	採択(全員一致)
陳情第2号 R143号 青木峠新トンネルの安全な通行のための歩道設置に関する陳情書について	●	●	●	●	●	●	●	—	●	●	不採択(全員一致)

※議長は採決に加わりません。

常任委員会報告

令和8年第2回青木村議会定例会で、総務建設産業委員会に付託された案件について委員会審議が行なわれました。
審議内容は次の通りです。

総務建設産業委員会

委員長 松本 淳英

陳情第1号 国道143号青木峠バイパス (新トンネル)の早期開通をも とめる陳情書

工事の進捗状況、用地取得ができず事業が中断した場合の影響、本体工事早期着工について必要なこと等について質疑がされました。令和元年度に事業化され、本年度は2期目の村

道付け替え工事が発注される一方、ヤード及びトンネル坑口の用地取得がいまだ1名できていない。この用地の取得ができない限り次年度以降事業の進捗が見込めないこと、用地取得が滞り事業が一時中断した場合、国の補助は厳しくなり、一日も早い着工のために用地取得が必要である等の答弁がありました。「本事業は長年にわたり青木

村の住民が待ち望んできた悲願であり、住民の代表である区長会が陳情された意味は大きく、採択して関係機関へ強く要望することは極めて重要であること、また、新トンネルが開通することで、観光産業の発展はもとより防災、医療、教育の面でも大きな貢献が期待されることから、早期着工を願う意見として大きな意味がある」との賛成討論があり、全員賛成にて原案のとおり採択することに決定しました。

陳情第2号 R143号青木峠トンネルの 安全な通行のための歩道設置に 関する陳情書

現在の幅員構成に至った経緯、歩行者や自転車の利用の状況、歩道設置を検討する余地について、新バイパスが開通した場合の現在の国道の取り扱い、松本側のトンネルの状況等が質疑されました。

道路構造令にもとづき歩行者や自転車の利用者が少ない青木峠トンネルでは歩道設置する判断に至らなかったこと、令和元年台風19号災害を受け、令和2年度実施された調査は歩行者通行はほぼ0であり、自転車は週末を中心に若干いる程度であったこと、国の事業採択がされており歩道設置へ変更は困難であること、新バイパス開通後は現在の国道は青木村が村道として引き受けること、松本側のトンネルにおいては、今年度中に事業用地取得が終了し、現在明かり部の設計を実施中で進捗に応じて発注がされる等の答弁がありました。

「陳情者の交通安全に対する

考えは十分に理解できるものの、現在の計画は道路構造令に基づいた設計であり、これを変更してまで歩道設置を検討することにより生じる事業の遅延は、早期開通を願う地域住民の理解が得がたい」という反対討論があり、賛成者なしにより不採択とすることに決定しました。



新トンネル坑口

高齢者の一人暮らし対策を



塩澤 敏樹 議員

1. 高齢者の一人暮らし対策の現状と課題について
2. 林野火災の予防と林野火災警報について



青木村で運営している高齢者生活福祉センター



政府広報の山林火災防止チラシ

1 高齢者の一人暮らし対策について

問 現在の一人暮らし高齢者の人数と、その推移をどのように把握しているか。

住民福祉課長答弁

地域の民生委員さんやケアマネジャー等の情報、また、地域包括支援センターの職員の訪問等により現状を把握している。

令和7年の独居高齢者世帯は247世帯と、全世帯の約16%、令和12年には264世帯で、全世帯の約17.1%、令和17年は284世帯と、全世帯の約18.4%となる見込み。

問 見守りの利用状況と課題は。

住民福祉課長答弁

村の緊急通報システムを利用している方は25名ほどいる。体に急な異変があった場合には、そもそも通報自体ができないという課題を考えている。民生児童委員の皆様と地域包括支援センター職員も、時間的なロスが生じてしまうということが課題。

問 空き家バンクや村営住宅を活用した高齢者向けシェアハウスの導入について。

商工観光移住課長答弁

平成11年にラポートおおきに隣接して、高齢者生活福祉センターを整備した。

当村では、空き家バンクや村営住宅を活用しての高齢者向けシェアハウスの導入については検討していない。

問 上田市や東御市など、近隣自治体との広域連携による共同事業の可能性については。

商工観光移住課長答弁

新たな広域連携、共同事業については、今のところ考えていない。

2 林野火災の予防と林野火災警報について

問 林野火災の発生状況とこれまでの対応について。

総務企画課長答弁

直近8年間で合計4件。消防団を中心に、反省点を含めた課題等について話し合い、必要に応じて消防署からの助言をいただきながら、課題等の整理を行っている。

問 住民や入山者に対する火気取扱いの周知、啓発は。

総務企画課長答弁

毎年春に、山火事防止パレードによる啓発活動を実施している。ほかに、ポスターの張り出し、リーフレットの配布、広報誌への掲載、また、おおき電話での呼びかけをしている。今後は、青木三山の登り口に注意喚起ののぼり旗を設置する予定。

問 林野火災警報の発令基準、警報発令時における住民への周知方法については。

総務企画課長答弁

上田地域広域連合消防本部が発令をしている。発令する地域は、上田地域広域連合消防本部管内に対して発令をする。市町村別の運用は現在行っていない。必要に応じて村独自でも情報配信をしていきたい。

住民への周知方法については、現在、おおき電話による放送、NHKによるテレビ放送を行っている。5月22日からは、村の防災メール、おおきナビ、おおきチャンネル、はれラジにより、村から配信できる対応を取っている。

問 林野火災警報の取組と今後の強化について。

村長答弁

山際あるいは山の中での火の取扱いは危険であり、消防団あるいは川西消防署と連携しながら、住民への注意喚起について徹底をしていきたい。

そして、火の取扱いについて、御理解と御協力をいただき、村としても、おおきネットワーク等を駆使して十分注意喚起をしていきたい。

7

青木村のおいしい水をいつまでも



小林 久美子 議員

1. 新たな幹線道路について
2. 村の防災について
3. 村の飲料水について
4. 地域未来戦略について

1 新たな幹線道路について

問 国道143号青木峠バイパス工事で並行してバイパス幹線道路を作る計画はないか。

村長答弁

上田市と共通認識の下、数年前から既に協議をしている。今ある道路を拡幅するあるいは改良する等ルートを検討を進めている。青木村の今年度長期振興計画の検討の中で、議論を重ねていく。

2 村の防災について

問 ヘリポート周辺の電線について。

総務企画課長答弁

電線については一定の離隔が確保されており機能に影響はない。

問 電線の地中化、埋設について。

総務企画課長答弁

地中化は数々の利点がある。しかし電柱を新設する場合に比べて整備費用が約3倍から10倍かかるため現在は地中化を計画することは大変難しい。

問 青木村内の消防ホースの交換について。

総務企画課長答弁

破裂する危険のあるホースが見つかった場合に、消防団が即時に交換する対応を現地で行っている。

問 青木村で井戸の活用について計画があるか。

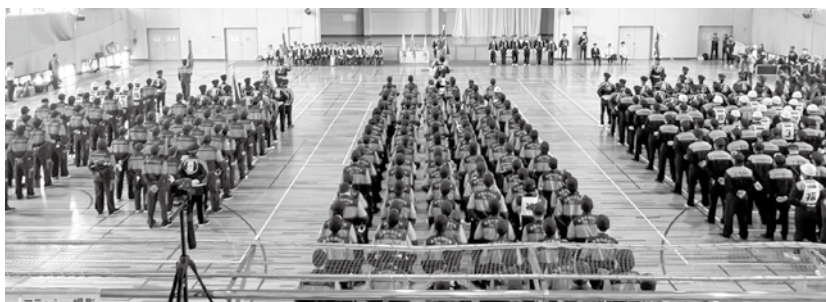
総務企画課長答弁

地震など大規模な断水が発生した場合には別の水源として井戸の利活用が期待される。

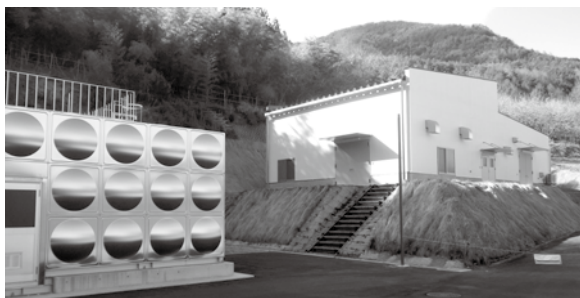
問 青木村での井戸への重要性和管理、水質、メンテナンスなどについての取り組みは。

総務企画課長答弁

国土交通省のガイドラインで井戸を保有している方が普段から井戸水を利用して新鮮な地下水が流入でき



青木村のヒーロー青木村消防団



私たちの生活を支える青木村の水道施設

る状態を目指す事が望ましい。

3 村の飲料水について

問 青木村は、全国的でも降水量がかなり少ない。飲料水や防火水槽の水の確保は。

総務企画課長答弁

現在のところ安定した給水体制が確保されている。

問 村の飲料水について。何千人くらいまで確保できているか。

建設農林課長答弁

排水される量がすべて有収水量になるという仮定の試算で約6,000人である。

問 青木村の人口減少の昨今水道事業の経営状況は。

建設農林課長答弁

問 経営収支比率は実質的には赤字。持続可能な簡易水道事業を運営していくために、安定的に黒字を維持できる収支構造へ改善していくことが求められる。

問 青木村の上下水道のインフラ状況はどうか。

建設農林課長答弁

管路は総延長で約100km。法定耐用年数40年を超えた管路の割合は49.3%。村では国から補助金をもらって管路更新事業を実施している。

問 水道広域化や共同化についての青木村の取組は。

建設農林課長答弁

5団体による上田圏域水道事業広域連携検討会を設置し検討を重ねている。

4 地域未来戦略について

問 青木村の経済について。

村長答弁

強い地域経済の構築と言い換えれば稼げる村づくり。竹内製作所や道の駅あおきの年間売上高も相当伸びている。来客数も相当伸びている。

教育環境の充実が移住政策の切り札に



松本 淳英 議員

1. 移住政策について
2. 教育行政について



ふるさとワーキングホリデーで
移住促進

ダイヤ改正で
通学しやすくなる村営バス



1 各種制度を活用して移住定住を促進!

問 地域おこし協力隊の現状と採用の状況は。

商工観光移住課長答弁

現役の隊員は1名で、新規農業、人手不足の農家への支援、猟友会の活動、そば打ち技術取得など活動している。隊員の募集は通年しており、3か月のインターン期間を設け、活動内容の合意を得て本採用している。

問 都市部の方に一定期間(2週から1カ月)青木村に滞在し就労していただき、地域のくらしを体験していただく「ふるさとワーキングホリデー」への取り組みについては。

商工観光移住課長答弁

県内先進地を参考に研究し進めていきたい。

問 集落支援要員制度については。

商工観光移住課長答弁

地域の実情に詳しく集落対策の推進に関してノウハウ、知見を有した人材が集落への目配りとして、集落の巡回、状況把握等を実施する制度で交付税措置もある。青木村では空き家の状況から活用、保全、解体が進むよう所有者に連絡を取り合いながら助言、提案している。

問 村営住宅の建て替えの見通しと財源、様式等は。

商工観光移住課長答弁

本年度3棟6世帯の解体を行う。建設の財源は、国の補助金、民間資金の活用、公設民営、民設民営などの選択肢がある。少人数化、核家族化が進んでおり、住宅の間取り、面積等を見据えて、金額等も配慮し、住宅の整備に努めていく。

問 取り壊しが行われる村営住宅において、既存の在住者への対応はどのように行われているか。

商工観光移住課長答弁

現在入居されている方については、面接、面談を通じ御意向に沿って、退去していただく。

2 登校の安全確保と教育格差の縮小を!

問 小中学校で導入した監視カメラの状況と今後の方針は。

教育長答弁

昇降口周辺に設置がされている。不審者の侵入防止や犯罪抑制に役立つ一方、プライバシーの侵害や情報漏えい等の問題もある。現在拡充の予定はない。

問 通学路における「子どもを守るあんしんの家」の協力者が減少している。事業者に協力を呼び掛けては。

教育長答弁

早速、商工会にお願いをした。

問 登校時に村営バスC線(当郷)を利用すると、バスの到着時刻が遅く、遅刻してしまう問題については。

教育長答弁

長年の課題であったが、ダイヤを5分早めることにした。

問 生徒の登下校の安全を確保するために、こどもGPS、キッズGPSの購入にあたり補助金をだすことは。

教育長答弁

要望として受け取る。

問 当村における要保護及び準要保護児童等就学援助費用の支払い基準は、周辺自治と比べてどうなっているか。

教育長答弁

周辺自治体とほぼ同様な水準であり、年度の途中でも申請を受け入れている分柔軟性がある。

問 低所得世帯に限定した支援を行うという意味で、就学援助費用は経済格差による教育格差の縮小につながる。子育て支援としての位置づけは。

教育長答弁

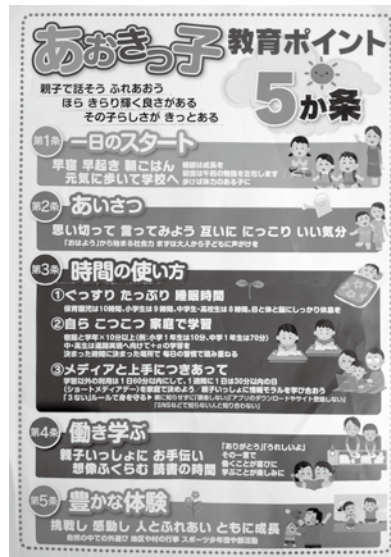
全家庭への申請書の配布、年度途中の申請受付など、他の自治体にはない柔軟な対応をとりたい。カンガルー教室やたんとキッズあおきなどの経済以外の支援も充実している。

スマホの適正使用と少子化対策



北澤 久美子 議員

1. 「子どものスマホ環境の問題」について
2. 人口減少・少子化対策について



あおきっ子教育ポイント5か条



社会福祉協議会にある結婚相談所の看板

1 子どもたちのスマホ環境の問題について

問 青木村における子どものスマホ所持率や利用時間の実態などを把握するためのアンケートを実施しているか。

教育長答弁

令和4年に小・中学校の全児童・生徒の家庭にアンケート調査を村として実施した。「メディア信州」という団体でも、毎年県で10万人規模のアンケート調査を実施している。

問 外部講師や専門家を招いた児童・生徒及び保護者向けのワークショップや講演会を、村として開催を支援する考えは。

教育長答弁

外部講師を招いた予防教育、ワークショップ、講演会等を、小学校も中学校も毎年実施している。

今年も、中学校では4月に研修を実施した。

問 親子で話し合い、家庭内スマホルールをつくり、村・学校・家庭が一体となって取り組む考えは。

教育長答弁

令和5年度にあおきっ子教育ポイント5か条を改定した。以前は「スマホは持たせない」となっていた約束を「メディアと上手につきあって」とした。

子どもたちを一方的にルールで縛ってしまうことは、一時的な効果はあっても、自己決定力を低下させてしまうおそれがある。子どもと大人が一緒になって考えて、互いが納得できるルールをつくり、自分で行うことが本当の意味での子どもたちのためになるというように考える。

学校ではこれからも継続した取組を大切にしていくなかで予定である。

2 人口減少・少子化対策について

問 今後子育て支援を、結婚・出産・育児へと包括的な少子化対策へと進化させるべきと考える。婚活支援・夫婦創出を少子化対策の重要な柱としての支援していくつもりはあるか。また結婚相談所の登録へのハードルが高いという現場の課題を解消するための、官民連携した具体的な支援策は。

村長答弁

北澤議員は現場に赴き意見交換をされたということとありがとうございます。相談員の皆さんも心強く思ったことでしょう。

相談所の皆さんは本当に一生懸命やっていただいております。月1回の定例会のほか、近隣の市町村との交換会も積極的に行っていただきありがとうございます。結婚相談員の活動につきましては、結婚を考えている方とかその家族の皆さんにどのようにPRしていくかというのが大きな課題と思う。

結婚イベントも色々具体的な知恵を出しながらやっているとは伺っている。

今後、結婚相談所の皆さんだけに頼るのではなく、民間マッチングアプリを管理する相談所もありますので、民間の相談所と連携を取り知恵を頂きながら運営を進めていきたい。

荒廃農地有効活用に向けて始動



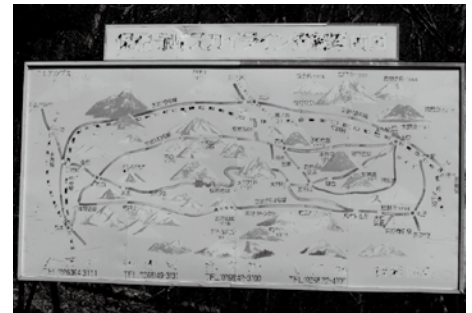
松澤 広海 議員



耕作放棄地解消に向けて

1. 耕作放棄地解消に向けての第一歩
2. 県道下奈良本豊科線の改良について
3. 保福寺峠頂上付近の整備について

保福寺峠頂上の案内看板



1 耕作放棄地解消に向けての第一歩

問 耕作放棄地解消に向けての第一歩ということで、沓掛区釜房上（日向林復活プロジェクト）第1回打合せが4月15日に行われ、4月21日に現地草刈りスタート、役場職員9名、地元有志4名で行われた。

その後、4月28日、雑木切り整備、役場3名、地元2名、4月30日、粗耕運、役場3名、5月7日、苦土石灰80袋まき、役場職員、5月12日、2回目粗耕運、役場2名、地元2名。今後も畑づくりや作付に向けて、ご指導、ご協力をいただけるか。

村長答弁

耕作放棄の最大の原因は、高齢化と労働力不足といわれておりますが、これをどう解消していくか、誰が動いてやっていくかというのは大きな課題で、この場所もそうであろうと思う。

問題意識を共有していただきまして、話し合いが行われ、行政としても農業支援センターを中心に再生作業を行う過程で支援をさせていただいている。

今後についても継続的な支援を行っていくが、ぜひとも地域内でこの取組に賛同していただき、そして作業をしていただく方を増やしていただきたい。

今後、中山間地域支払等の復活も含めて、また皆さんと一緒にしていきたいと思っている。

できれば、この取組が青木村におくる耕作放棄地の解消の成功事例として、他の取組の模範になるよう私も一生懸命支援したいと思っている。

2 県道下奈良本豊科線の改良について

問 県道181号下奈良本豊科線の改良をお願いしたい。上の牧草地入り口から300メートルぐらい下側の道路が段になり、下がっている所があり、山側側溝切り掘

りでU字溝が入っていないので水が入り、地滑りになる可能性もある。

建設農林課長答弁

県道下奈良本豊科線の管理につきましては、関係する沓掛区、下奈良本区、入奈良本区から、道路の整備や維持管理に関しまして大変多くの要望をいただいております。御指摘の箇所につきましては、先日、入奈良本牧場の上の入口から300メートル下がった県道において、延長17メートルにわたり10センチ程度の沈下を確認した。

当該箇所は道路側溝がなく、山からの雨水排水が県道の舗装下に流入している可能性が高く、路面の一部が沈下している可能性がある。

早速、上田建設事務所には状況を報告して、必要な措置を取っていただくよう依頼した。

3 保福寺峠頂上付近の整備について

問 保福寺峠頂上付近の整備について、保福寺峠スカイライン沿線案内図、これは経年劣化してリフォームが必要かと思います。併せて展望の確保をお願いしたい。

商工観光移住課長答弁

観光案内看板は昭和54年、青木村、当時の四賀村、丸子町、上田市の4市町村観光協会を設置され、高さ2.8メートル、横3.6メートルとひときわ目を引く看板である。

40年経過し、劣化が進む中で、昨年末、松本市四賀地区文化財保護協会からの申し入れで、景観の配慮、倒壊の危険、維持、修繕費用の負担がかかることが指摘された。現在、撤去に向けて、四賀観光協会、上田市観光協会と協議中である。

展望の確保については、今後、要望していきたいと思っている。

活動しやすい消防団の体制づくりを



宮澤 政美知 議員

1. 青木村消防団について
2. 新たな特産品の開発について



皆で楽しむ消防大会



「道の駅」地元お土産コーナー

1 青木村消防団について

問 直近団員数と推移は。

総務企画課長答弁

令和8年度191名。前年度比マイナス32名。

問 41歳以上入団制度の内容と年次推移は。

総務企画課長答弁

令和3年度施行。対象は41歳から55歳の方。令和8年度は21名で微増。

問 団員増加のための新たな取り組みは。

総務企画課長答弁

- ①消防団活動の負担軽減と働きやすい環境づくり
- ②企業地域住民の理解と協力 ③多様な人材の確保と魅力の情報発信。悩みや要望を聞き、より活動しやすい消防団活動に取り組む。

問 4月19日の林野火災について、鎮火までの経過と消防団員の出勤状況は。

総務企画課長答弁

火災覚知は4月19日12時31分、川西消防署と消防団の放水、消防防災ヘリコプターの計8回の放水により14時52分鎮圧、鎮火は翌日11時30分。消防団員の出勤人員は、19日が94人、20日が45人。

問 対応の問題点や改善点は。

総務企画課長答弁

問題点を洗い出し、集約、今後に備えて対応する。

問 消防団の課題と取り組みは。

総務企画課長答弁

- ①消防車両、装備品の更新は、最優先課題として対応する。②団員確保の取り組み。

問 活動しやすい消防団とは。

総務企画課長答弁

処遇改善や整備等の充実や、スマートフォンへの一

斉送信で効率的な運用を図ってきた。仕事や家庭の両立や、若者世代の気持ちに寄り添った仕組みにも柔軟に対応していくことが大事。

2 新たな特産品の開発について

問 タチアカネそばの売れ行きと今後の市場拡大は。

商工観光移住課長答弁

生産はオール青木で取り組んでいる。味処こまゆみでは、そばの注文が6割を占める。そば焼酎、冷凍そば、そば粉の販売も好調。市場拡大に取り組む。

問 手土産とする新商品開発の計画は。

商工観光移住課長答弁

お土産により知名度、経済効果も高まり地域の活性化につながっている。開発した新商品に習い、農林水産業や製造業、地域住民にも参加を募り、プロジェクトを進めたい。

問 郷土の土産品創出プロジェクトとの事業内容は。

商工観光移住課長答弁

新規事業。特産品を生かして新商品を開発する。アイデアを広く公募する。

問 ふるさと便事業は。

商工観光移住課長答弁

生産者や品数の減少で売上げ半減。原価送料も高騰で令和6年度以降行っていない。

問 今後の再開は。

商工観光移住課長答弁

農産物を旬の時期に送る形を作りたい。民間活力にも期待し、事業の復活を叶えたい。

問 村の特産品をセットにして、通年販売は可能か。

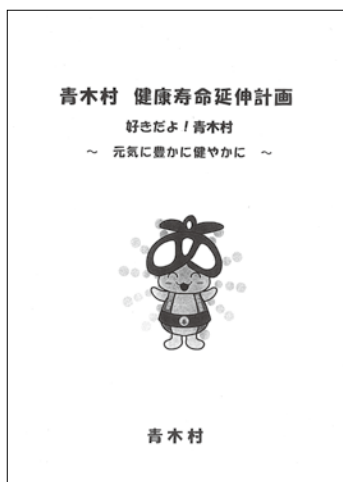
商工観光移住課長答弁

ネット販売も含め、通年利用できるふるさと便を復活させていきたい。

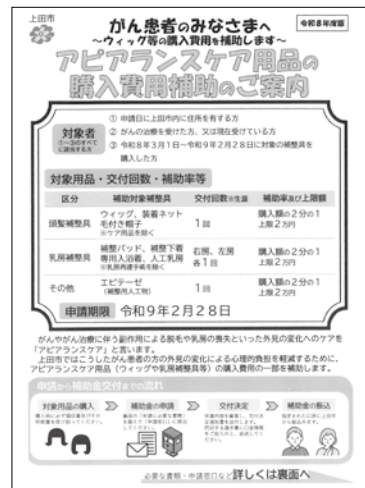
がん予防対策とアピアランス補助を



宮入 典子 議員



青木村健康長寿命延伸計画



上田市アピアランスケア用品補助のご案内

- 1.「健康長寿計画基本方針」生活習慣病予防のがん予防対策について
2. アピアランスケア用品購入補助について

1 がん予防対策について

問 がんは我が国の死亡原因の1位です。青木村においても死亡原因の1位です。早期発見、早期治療が大切。令和6年度の各種がん検診の受診率は。

住民福祉課長答弁

令和6年度のがん検診の受診率は胃がん検診5.9%、大腸がん検診18.2%、肺がん検診についてはレントゲンが13.8%、CTが4%、乳がん検診は超音波検診19.2%、マンモグラフィーが12.3%子宮頸がん検診が15.5%でこれらは村で実施している検査の受診率になる。

問 村民の皆さんが受診しない理由は。

住民福祉課長答弁

がん検診を受診しない理由としては時間がないという理由が一番。続いて面倒、健康に自信がある継続的に通院しているなどの理由が挙げられる。

自分は大丈夫といった自信から身近な病と思っておらず検診に結びつかないと思う。

問 村民のみなさんには検診の申し込みの時に病気についてのリスクや検診の重要性をもっとPRする方法は。

村長答弁

検診の申し込みの時に一緒にがん検診の案内もさせていただいている。

がん検診で精密検査になった方には受診勧奨をしている。健康づくり講演会、健康教室、介護予防教室あおきカフェなどでがん検診の案内や重要性についてPRしていきたい。

問 がん患者の方や家族の方が情報交換したり悩みの相談ができる家族会を作ることとは。

住民福祉課長答弁

多くは医療機関で相談や情報交換を行っている。相談には専門研修を受けた看護師や医療ケースワーカーが対応しているので今の状況では村で設置は難しい。

2 アピアランス用品の補助事業について

問 長野県に続き青木村でもがん患者さんの就労や社会参加を支援するために治療に伴う外見の変化(脱毛、傷跡、乳房の喪失など)患者さんの苦痛を軽減させるケアとしてアピアランスケア用品の補助事業をしているが、青木村で補助申請された方はどのくらいいるか。また問い合わせは何件か。

住民福祉課長答弁

令和6年度は2名、令和7年度も2名。問い合わせは数件あった。

問 補助事業については村のホームページにも載っていますが具体的に分かりやすいチラシを検診会場などわかりやすいところに掲示できないか。

住民福祉課長答弁

アピアランスケアの案内は基本的に医療機関のソーシャルワーカーがしている。検診会場にパンフレットを設置できるので対応します。

問 アピアランスケア用品補助申請は市町村になっているので窓口申請の案内表示を考えていただきたい。

道路行政・河川行政の充実を



金井 とも子 議員

1. 青木村の道路行政について
2. 青木村の公共施設について



舗装が待たれるグランド駐車場入口

1 青木村の道路行政について

問 国道143号の丸子信州新線との青木交差点、青木中学校入口から洞入口までの青木峠方面に向かって左側の歩道の整備について県への要望等の経過は如何か。

建設農林課長答弁

青木区からの要望もあり、県に対して舗装修繕の要望は毎年行っており、県も現地を確認している。

問 青木村総合グランド駐車場東側入口舗装の破損に対する対応は。

建設農林課長答弁

村道村松国道南4号線については、本年5月中旬に補修工事を発注し、国道交差点部からグラウンド駐車場までの間の約40メートルの舗装の打ち替えを実施する予定。

問 定期的に役場職員によって、村内の道路や河川点検のためのパトロールを実施されては如何か。

建設農林課長答弁

村道の点検は、村の職員が定期的にパトロールを行って修繕が必要な箇所は業者委託や職員直営での補修を行っている。村道は約170kmあり、職員1・2名では把握しきれていないのが実情。各区長さんに通報など御協力いただいている。地域の皆さんにも御協力をお願いしたい。河川についても同様である。

2 青木村の公共施設について

問 数多くある施設だが今現在使用されていない施設は。
村長答弁

村の管理する公共施設は、公民館を除き123施設、建物数で199ある。中には、利用が減少している施設や十分に活用されていない施設もある。

本年度は公共施設等総合管理計画の改定時でもあることから、今後は施設の維持だけでなく、地域の実情、将来的な財政負担、施設の集約化、用途変更、民間

活力などを含めて今後の公共施設の検討を進めていく。

問 ゲートボール場や旧授産所跡地の建物の利用状況は。使用されていない施設は資源ごみなどの常設置き場として利用できないか。

住民福祉課長答弁

ゲートボール場の利用人数は減少しているが定期的に利用している。旧授産所跡地の建物は現在防災倉庫として活用している。資源ごみの常設置き場については、ごみの収集日までの管理、資源ごみ以外や村外から持ち込まれるなどの問題もあり今すぐ実施することは難しい。

問 文化会館2階講堂は、パソコンの映像で説明される講演会が多いが、スクリーンが後方では見えない。聞こえも悪い。改築の機会があったら、椅子席を階段式の観覧席にすることをお願いしたい。

教育長答弁

スクリーンを高く設置し、椅子を互い違いに配置して見やすい工夫をしていく。また、スピーカーの後方の聞こえもしっかりと確認したい。

当面の間は、全体のコストを抑えながら施設を長持ちさせる長寿命化を優先する。改築は財政的にも困難。

問 前診療所長の住居跡地を舗装して、診療所の職員駐車場にしては如何か。

総務企画課長答弁

過去に検討した経過がある。近くて便利だが、道路からの侵入は間口が狭く面積も狭いことから駐車場としては適さないと判断した。今後、防災倉庫の設置場所など有効な活用策を検討する。診療所の医師を含めた職員の駐車場については、現在は診療所の建物のすぐ東側に3台分、旧授産所駐車場の東側で出入口が一番近い便利な場所に3台分、計6台分の専用駐車スペースを明示して確保する配慮をしている。

水田転作ローテーション5年に一度へ



坂井 弘 議員

1. 自転車・歩行者・送迎車の交通安全対策
2. 米作りの展望と石油由来製品供給不足の現況
3. 村民のいのちと健康を守る夏の猛暑対策

1 当郷バス停の移動を検討

問 道交法改正以後、自転車事故が多発している。村内の国道の歩道を高校生の通学時間帯指定で自転車走行を可能にすることはできないか。

総務企画課長答弁

運用は難しい。

問 旧道に「自転車通学優先路」の標識を掲げられないか。

総務企画課長答弁

通学路指定をしていないので難しい。

問 青木行き当郷バス停と横断歩道が近過ぎて危険。移動できないか。

総務企画課長答弁

バス停標識は千曲バスの所有。設置場所近隣住民の同意があれば可能。関係者と協議を進めたい。

問 学校行事・部活動・地域展開引率時の交通手段は。

教育長・総務企画課長答弁

村のバスを用い、2種免許所有者に依頼している。今後、健康管理チェックリストを作成する。地域展開の送迎は保護者。ライドシェアも検討中。

2 水田転作ローテーション38年ぶりの見直し

問 家族農業による米の耕作面積が10年前と比べ半減している。見解は。

建設農林課長答弁

高齢化・後継者不足・労働力不足等が大きな原因と認識している。

問 自分の土地があっても4年に一度耕作できないことで耕作意欲を減退させている。村の生産数量目安値が令和6年度に激減している理由は何か。

建設農林課長答弁

目安値に対し、作付面積が下回ったため減らされた。

問 作付面積が下回っていることは昨年も指摘し転作ローテーション解消を求めたが見直されなかった。全面見



家族農業を絶滅させない！
「毎年米を作りたい！」の願いを届ける

水稲作付面積の推移

年度	令和 西暦	生産数量目安値 (ha)		水稲作付面積 (ha)	当初目安値に対する 作付達成率 (%)
		当初	最終		
3	2021	112.0	98.53	96	97.4
4	2022	105.0	91.1	91	86.7
5	2023	103.0	89.0	72	69.9
6	2024	89.0	89.0	87	97.8
7	2025	91.0	89.5	88	96.7
8	2026	95.0			

(建設農林課提供・坂井一部加筆)

水田転作ブロックローテーション見直しを迫るデータ

直しが難しいなら、4年を5年にすることはできないか。

建設農林課長答弁

諸々の問題を解決すべく、令和9年度は5ブロックにすることを本年の農業再生協議会に諮る。

問 石油・ナフサ由来製品の供給不足不安が増大している。農業・村内事業所・医療介護施設・村民生活への影響は。

建設農林課長・商工観光移住課長・住民福祉課長答弁

農業機械・施設資材の供給が止まるような支障は確認されていないが、価格・納期・工事日程への影響が考えられる。製造業・建設業で、製品・資材等の調達や価格上昇で大きな影響を受けている。村内の医療介護現場では、不足している状況にはない。ごみ袋も逼迫していない。

3 スポットクーラー・給水スタンド・温度計設置へ

問 夏の猛暑対策として小中学校体育館へのスポットクーラー設置の提案があったが、詳しい説明を。

村長答弁

体育館全体にクーラーを入れることはすぐにはできないので、真夏の体育館で子どもたちが運動したり遊んだりできるようにスポットクーラーを入れることにした。

問 県のエアコン設置促進事業の申請状況は。

住民福祉課長答弁

現在までのところ、申請はない。

問 補助率や対象者を村独自で拡大する考えは。

住民福祉課長答弁

拡大している市町村はない。青木村も同様としたい。

問 道の駅等に給水スタンドやミストシャワーの設置を。

商工観光移住課長答弁

検討したい。

問 道の駅・運動公園等に温度計を設置してはどうか。

商工観光移住課長答弁

必要と考える。検討している。



全国町村議長・副議長研修

5月26日、東京国際フォーラムで「町村議会会長・副議長研修会」が行われました。

研修テーマと講師については「地方創世の行き先」

ー 地域未来戦略とともにー
(二財) 地域活性化センター

理事長 林崎 理氏

「人口減少社会における外国人材の確保・育成の実践」

東海大学教養学部人間環境学科教授 万城目 正雄 氏

「男女共同参画で地域を元気にー人口減少社会を生き抜く方策ー」

京都女子大学学長

竹安 栄子氏
「女性模擬議会の取り組み」

宮城県蔵王町議会
「人口減少社会における外国人材の確保・育成の実践」では

キーワードは「アジア」「中小企業」「地方」だといわれ、入国・在留する外国人が増加し、ベトナム

中国、フィリピンで外国人労働者の半数を占めていて、外国人雇

用事業所の規模で、八割が100人未満の事業所です。外国人住民の伸びが大きいのは町村部です。全国25町村が10年で10倍以上の伸びているようです。

地域としては、生活者としてどのように受け入れていくのかを大切にしてほしいとのことでした。

生活支援ができ、多文化社会の共創を作っていくことが大切であると感ぜ

ました。
(塩澤敏樹)



令和8年5月上田地域広域連合議会臨時会

5月25日上田地域広域連合議会臨時会が開催されました。3月29日に行われた上田市長・議会議員選挙の結果を受け、4月9日に行われた広域連合長選挙の結果、斎藤達也上田市長が選任されました。上田地域広域連合議会議員に13人の議員が選出され、議長選挙では指名推薦で上田市長の飯島伴典氏が選任されました。斎藤達也広域連合長挨拶では、資源循環型施設整備について入札事務を開始したことに触れ、「上田圏域で過去最大規模の

事業であることを踏まえ、積極的な地元雇用および地元企業の活用などに配慮し、公平・公正な事業者選定に努める。

地域医療対策については救急医療体制を維持する「上田スタイル」に加え中核病院である信州上田医療センターの救急部機能の強化・充実に向けた課題に対し

て、医療機関、医師会、県、関係市町村等と連携し、協議を重ね、地域住民の安全・安心な暮らしを守るための医療体制の構築に取り組む。

次期広域計画の策定について、現在の第6次広域計画は、令和9年度が最終年度となる。今年度から次期広域計画の策定に着手する。策定にあたって、関係市町村と現計画の17の事務事業など検証を行うと共に、地域住民を中心に構成される「広域計画策定委員会」を設置し来年度にかけて協議を行う。

上田、丸子、東部クリーンセンターへの搬入ごみが、令和7年度に3万5981トン、前年度比で775トン、約2・1%減少。ごみ処理広域化計画では、今後5年間でさらに2678トンの減量が必要なため、ごみ減量化に取り組むとした。又3クリーンセンターは稼働から30年以上が経過していることから、老朽化により突発的な不具合の発生の頻度が年々高くなっており、特に丸子クリーンセンターの老朽化が著しく、重要な部分に故障が相次ぎ、都度緊急修繕にて対応してきた。資源循環型施設が令和13年度から稼働開始を目指していることから、3つのクリーンセンターの再編・集約について検討を始めている。清浄園は、資源循環型施設の建設に伴い、今年度末をもって受け入れを停止し、施設を廃止する予定とした。」と話されました。

人事案件で監査委員の選任では、元東御市職員の柳沢秀夫氏と、齊藤加代美議員の選任に同意。公平委員会委員の選任では、元長和町職員の金山睦夫氏の選任に同意しました。

事件決議案件では、上田クリーンセンターの集塵装置、バグフィーダー用ろ布の購入で、指名競争入札により「エコサービス(株)(埼玉県深谷市)」と4540万円余で契約することを可決。

議長選挙や人事案2件、事件決議案1件、報告1件の計4件が提出され、同意、可決・認定して閉会しました。(平林 幸二)

議案審議終了後、事務局から事業計画・森林整備方法について説明を受けました。

その後、マイクロバスで共有財産組合林の嶺裏(たけうら)とラトミの2箇所を現地視察しました。嶺裏は子檀嶺岳の西側に位置し、植樹4年のヒノキと今年植樹したばかりのカラマツが、長野市長沼地区と共同植樹会をした修那羅峠中腹のラトミには抵抗性アカマツが元気に育っています。

(坂井 弘)

令和8年度 町村議会会長・副議長研修会

令和8年度 町村議会会長・副議長研修会

令和8年度 町村議会会長・副議長研修会

令和8年度 町村議会会長・副議長研修会

令和8年度 町村議会会長・副議長研修会

令和8年度 町村議会会長・副議長研修会

青木村及び上田市共有財産組合議会臨時会報告

上田市議会選出議員が改選さ

れたことに伴い、5月21日、青木村役場会議室において臨時会を開催しました。

主な審議案件は、
○副議長の選挙
○監査委員の選任の2件です。

慣例により、上田市議会選出議員から副議長・監査委員を選任し、新たな議会構成は以下のようになりました。

議長 坂井 弘
副議長 井澤 毅(上田市)
監査委員 村越深典(上田市)

議員 塩澤敏樹
金井隆之(上田市)
半田大介(上田市)

小林久美子
松澤広海
矢島明徳(上田市)

池田総一郎(上田市)

議案審議終了後、事務局から事業計画・森林整備方法について説明を受けました。

その後、マイクロバスで共有財産組合林の嶺裏(たけうら)とラトミの2箇所を現地視察しました。嶺裏は子檀嶺岳の西側に位置し、植樹4年のヒノキと今年植樹したばかりのカラマツが、長野市長沼地区と共同植樹会をした修那羅峠中腹のラトミには抵抗性アカマツが元気に育っています。

(坂井 弘)

住民の 声

ホットとおおき

岩淵美代子・登喜夫

青木村に唯一の総合食品スーパー「ジェイエイ青木店」は高齢化・少子化・建物の老朽化、さらに、事業継承問題に直面していました。地域住民の生活のために、長く続いた店の明かりを消すわけにはいかない、そこで去年（令和7年）3月、今迄のスタッフと事業を引き継ぎました。その直後、青木中学校の3年生30人が全員で買い物を通して、支えあう気持ちを持って店を元気づけてくれました。この行動と思いやりを大切に、買い物を通して支え合う気持ちを持って、住民に役立つ場所になるように心がけています。

また、青木村からのご支援、商工会のご指導を頂き、国の小規模事業者持続化補助金を受諾し、この1月に店内の照明のLED化、惣菜売り場の拡張と看板新調、談話コーナーの新設などリニューアルを行いました。薄暗かった店内は、電球がLEDに変わったことで明るくなり、商品が見易くなりました。また、人気の手作り惣菜コーナーを拡張し、入り口にも「ホットとおおき」と強調した看板を設置しました。さらに事務所の荷物置き場を整理し、談話コーナーを新設しました。テーブルと椅子のほか展示品置き場の木製

ボックスも設置しました。現在はこの談話コーナーでは買物後に休憩したり、学校終わりの子ども達がお迎えを待つ場所として利用するなど、少しずつ利用者が増えています。

木曜日には看護師による「健康いきいきおしゃべり時間」と称して、気軽に雑談・健康相談をしたり、茶道の先生が点てた美味しい抹茶を味わったりもできます、いずれいろいろな企画を増やし、この談話コーナーを活用することが、買い物だけではなく利用者同士が交流しあい、地域にとって価値ある場所になることが私たちの目標です。

住民の需要がある限り、配達や品揃えを充実させ、微力ながら村の皆さんのお役に立てればと、再度奮起しています。

「ホット」できる場所づくりに努力してまいりますのでお力添えください。

皆様のご利用を心よりお待ちしております。



編集後記

令和8年6月第2回定例会も無事に終了いたしました。

今回は報告4件、議案5件、発議1件、陳情2件。そして一般質問9人と素晴らしく濃い内容の定例会になりました。

一般質問では議員全員が青木村の発展や住みやすさを追求する良い質問が続きました。陳情でも今後の青木村の発展を強く思う良い意見交換が委員会にて話し合われました。さらに上下水道の老朽化対策の支援を求める意見書など発議されました。

村民全員の協力が青木村をさらに豊かにするきっかけになります。

今後も村の活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

小林久美子

青木村議会日誌

5月

12日／青木村商工会総会（議長）
12日／ALT講師歓迎茶話会
13日／上田地域広域連合議会代表者会（議長）
21日／青木村及び上田市共有財産組合議会臨時会（共有財産組合議会議員）
25日／上田地域広域連合議会臨時会（正副議長）
25日／全員協議会
25日／議会運営委員会（議会運営委員）
26日／全国議長会議長・副議長研修会（正副議長）
29日／例月監査（監査委員）
30日／小学校運動会（正副議長、社会文教委員）

6月

1日／議会開会
4日／議会一般質問
6日／青木村消防ポンプ操法大会並びにラッパ吹奏大会（正副議長、消防委員）
7日／村民ゴルフ大会表彰式（議長）
9日／総務建設産業委員会
11日／議会審議採決
11日／議会報編集委員会（議会報編集委員）
11日／全員協議会
17日／地域公共交通会議（総務建設産業正副委員長）
20日／交通安全子供自転車上小地区大会（議長）
21日／上小消防ポンプ操法大会並びにラッパ吹奏大会（正副議長、消防委員）
24日／上田諏訪連絡道路建設促進期成同盟会総会（議長）
26日／例月監査（監査委員）

7月

2日／議会報編集委員会（議会報編集委員）
3日／長期振興計画策定キックオフワークショップ
6日／松本佐久連絡道路建設促進期成同盟会（議長）
9・10日／上田地域広域連合議会行政視察（正副議長）
11日／新生上田市誕生20周年記念式典（議長）
13日／議会報編集委員会（議会報編集委員）
13日／県議長会議員研修会
13日／丸子信州新線整備促進期成同盟会総会（正副議長、総務建設産業委員）
14日／村内視察（総務建設産業委員他）
20日／青木村女性団体連絡会・総会（議長）
22日／上田地域広域連合議会管内視察（正副議長）
23日／青木・麻績インター・新時間県道整備促進期成同盟会総会（議長、総務建設産業委員）
28日／例月監査（監査委員）
30日／全員協議会

今後の予定

8月

6日／国道143号整備促進期成同盟会 中央要望（議長）
17日～28日／決算審査（監査委員）
22日／県町村監査委員協議会定期総会・研修会（監査委員）
26日／議会運営委員会（議会運営委員）
26日／青木村及び上田市共有財産組合議会会計決算監査（共有財産組合議会監査委員）
28日／決算審査講評・例月監査（監査委員）